

揺れる心

幼稚園では、日6月15日から保育が再開となりました。今まで、希望登園であったり、分散登園であったりしていました。「今日は行くのか」「今日は幼稚園がないのだな」などアットランダムで、新入園児の子どもたちにとっては毎日、行かねばならないという意識も少なかったかと思われます。入園するまではずっと家でお母さんやお父さんを一緒に過ごしていた当たり前の生活から15日以降は毎朝、幼稚園へ行く用意をし、決まった時間に家を出発するという生活へと変わっていかなければなりません。そして、幼稚園に着くと、子どもたちも当然、お家の人との別れを経験します。これは今年に限ったことでなく、遅かれ早かれ、毎年ある出来事です。

「アーン」と砂場で泣いているAちゃん。側に行くと「ママー！ママー！」とAちゃん。背中をなでながら「ママがいいよね…でも、ママすぐに来てくれるよ…あれ？こんなのできた、何かな？」とたこ焼きの型抜きをして見せる。「あ！、すごーい」と次々たこ焼きをつくっていくとその声に応じて砂に目をやり、少しずつ私が差し出すスコップとケーキの型に手を出し、遊び始めました。

ある日。私「ママ、電話かかってきはったみたい。電話終わったら来てくれはるわ」Bちゃん「え？電話？」私「昨日みたいにボールで遊ぶ？」と誘うと気持ちがボールへ。

ある日。母「ママ、お買い物行かないと」Bちゃん「絶対にすぐに(迎えに)来て！先生、ボールはどこ？」

ある日。母「今日は自転車の調子が悪いから見てもらってくるわ」Bちゃん「絶対にすぐ来て！」毎日、お母さんは用事を思い出してくださり、「絶対迎えに来るから」と話してさっと幼稚園から去っていかれます。

お母さんにだっこしてもらってウーンと泣いていCちゃん。「ママがいい、ママがいい」と近づく私にも訴えています。「そうやね。ママがいいよね。でも幼稚園で先生もだっこするよ、ママの代わりにね、大丈夫だよ、ママがお迎えに来てくれるまで一緒に遊んでいようね」と言葉を掛けると母にしがみついていた手を私のほうへ差し出し、だっこされようとしてくれました。



AちゃんやBちゃん、Cちゃんだけでなく、心はお母さんと一緒にいたい、と思いながらも、あきらめ(?)納得し(?)遊びに興味をむけていこうとする子どもたちがいます。お母さんと思いながらも心は、揺れながら幼稚園へと向かっています。

子どもにとっては初めての社会デビューです。もちろん、泣いている子どもばかりでなく、幼稚園という新しい世界を自分の中に取り入れている子どもたちもいます。そういった子どもたちも自分で何とか解決しようと水で濡れた服を自分なりに着替えようとしたり、自分なりに周りの子どもたちに言葉をかけたり、時には同じおもちゃがほしくて互いに自分の思いを様々な方で伝えたり、…。そのなかで子どもたちの心は揺れています。

子どもとの別れ際、お家に人の心は、大丈夫かな、かわいそうだな、ごめんね、など様々に揺れてられると思います。でも、子どもたちに自立してほしい、幼稚園で楽しく遊んでほしい、先生や友達と一緒に楽しんでほしいなどを願って、後ろ髪を引かれながらも、時には涙が目に浮かびながらも幼稚園の私たちを信頼して、後を託して家へと戻って行かれます。また、お迎えの時間には、足早だったり、はやる思いで自転車を走らせたり、雨の日にも濡れながら走ったりして幼稚園までたどりついてくださるお家の方たち。我が子はどうしているだろう、泣いていないかな、待っているだろうな…など親の思いが門にいる私にしっかりと伝わってきます。

今、幼稚園の生活に慣れる時期です。しかし、ただ慣れるというのではなく、子どもたちもお家の人たちも、そして私たちも心が揺れながら、子どもたちの成長、自立という願いに向かっていきます。心というのは、人、子どもそれぞれの揺れ方もするでしょうし、揺れ幅も人、子どもによって違うでしょうし、揺れる期間も違うでしょう。通り一遍、ひとすじ縄で片付けるのではなく、一人一人の子どもや保護者を大事に思い、一人一人の保護者や子どもに丁寧に関わることに努めていきたいと思っております。

